令和６年度公益財団法人陸修偕行社事業計画書

１　方　針

陸修偕行社は、陸上自衛隊幹部退官者の会の初年度として、偕行社の目的及び事業を引き継ぎ、陸上自衛隊に対する支援を主眼として、安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及、陸上自衛隊等に対する必要な協力、英霊の慰霊顕彰及び自衛隊殉職者の追悼等を行い防衛基盤の強化拡充を図り、もってわが国の平和に関する国政の健全な運営の確保に寄与する。

この際、陸修偕行社を永続させるため、会勢拡大等について検討するとともに、収支均衡の達成に向けた更なる抜本的な対策に着手する。

２　主要考慮事項

（１）　安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及

陸上自衛隊の憲法上の位置付け、運用上の課題及び安全保障戦略（陸上防衛戦略）について、部外協力団体及び自衛隊の研究員等と連携して安全保障等（戦後の自衛隊創設に関わる諸問題を含む）の研究内容を深め、その成果を政策提言（防衛諸団体との協同によるものを含む）に反映する。

その際、陸修偕行社と陸上自衛隊現職幹部自衛官、賛助会員及び政府機関との緊密な連携に留意しつつ、オンライン配信やホームページでのYou Tube 配信等及び定期刊行誌『偕行』への掲載により、研究内容や成果を積極的に陸上自衛隊に対して提供するとともに、聴講者の拡大に努めて広く国民に普及する。

（２）　陸上自衛隊等に対する必要な協力

陸上自衛隊の諸活動に対して、隊力の補完等及び協力並びに相談・助言及び激励・慰問を実施して、その活動を支援するとともに、その拡充について検討する。

その際、陸上自衛隊が必要とする協力内容の把握に努めるとともに、陸上自衛隊及び陸上自衛隊の協力者等の陸修偕行社に対する理解の促進並びに陸上自衛隊との一体感の醸成に留意する。

（３）　英霊の慰霊顕彰

偕行社が行ってきた英霊に対する慰霊顕彰事業を引き継ぐとともに、わが国における英霊の慰霊顕彰の現状に鑑み、国家として在るべき英霊の慰霊顕彰について検討し、その成果を提言する。

（４）　地域社会活動に対する協力及び国内外の友好団体との交流

その在り方について、検討する。なお、地域社会活動に対する協力については、各地偕行会の協力を得て行う。

3　主要実施事業

（1）　安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及（公1）

ア　安全保障の調査・研究・提言（公1－1）

（ア）　「防衛3文書の具体化と残された課題」をテーマとして研究し、東アジア情勢の変化と今後の米中露の動向を分析し、米国の安全保障・外交政策や国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び防衛力整備計画の具体化に関する検証と具体化に伴い顕在化する課題を分析し、陸上防衛上の問題点・対策を明らかにする。

その成果を研究発表会（定期講座）、シンポジウム及び地方における防衛講話並びに政策提言を通して発信し、国民世論への啓発活動を推進して陸上自衛隊を支援する。

この際、必要がある場合は、政策提言研究会において検討しその内容を理事会に諮り陸修偕行社として発表する。

以上の目的を達成するため、特に定期講座の研究内容の重点を以下のとおり構成する。

定期講座（その1）は、安全保障戦略（陸上防衛戦略）、陸上自衛隊の憲法上の位置付け及び運用上の課題等の諸問題について、部外講師により開催して発信する。開催にあたっては、定期講座に連接して講師及び聴講者との意見交換会を開催し調査・研究内容を深める。

定期講座（その2）は、定期講座（その1）に比べ、より普遍的・専門的な軍事問題及び防衛技術上の諸問題について、研究員により開催して発信する。

（イ）　陸上自衛隊現職幹部自衛官、部外有識者及び協力団体研究員等との研究交流の場として、課題研究会を開催し、研究内容の深化及び充実を図る。

（ウ）　優秀な若手研究員を更に発掘し、幅広い研究体制を整備する。研究員の優れた研究発表については、努めて定期刊行誌『偕行』への投稿を勧めるとともに、一般誌等へ推薦及び紹介する。

（エ）　年度計画による研究発表会（定期講座）においては、聴講者との意見交換を重視する。

（オ）　第16回シンポジウム（令和6年7月）では、防衛3文書等が求める陸上自衛隊の運用上の課題等と対策を発信する。

（カ）　次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、8月に研究員夏季セミナーをリモート会議により実施する。

（キ）　政策提言及び会勢拡大等に資するため、防衛政策等、特に現職陸上自衛官及び元陸上自衛官の処遇に関する研究を行う。

（ク）　令和6年度安全保障研究定期講座等予定・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第1

イ　近現代史の調査・研究・提言（公1－2）

（ア）　中期計画（令和4年度から3カ年「戦後問題」をテーマ）の最終年度として、戦後問題を総括する。

本テーマは、現在の安全保障環境の基礎を形成した重要な戦後の自衛隊創設に関わる諸問題に係る事項である。このため、今年度は本中期間において取り上げることができなかった各別の諸問題を中心に取り上げる。

その成果を研究発表会（定期講座）及びシンポジウムを通して発信し、国民世論への啓発活動を推進して陸上自衛隊を支援する。

（イ）　年度計画による隔月（奇数月）の研究発表会（定期講座）においては、研究員の発表に加え、部外講師を招聘して講座の活性化を図るとともに、聴講者との自由討議により更に調査・研究内容を深める。

（ウ）　研究員の研究成果の活用については、その一部を定期刊行誌『偕行』に掲載するとともに、定期刊行誌『偕行』に掲載された論文等の書籍化について検討する。

また、戦史研究の活性化を図るため、会員等の研究成果のなかで優秀な論文を定期刊行誌『偕行』に掲載することにより、広くその研究成果を普及するとともに、近現代史研究の発展に寄与させる。

（エ）　第１６回シンポジウム（令和７年３月）では、中期研究テーマの総括として「戦後問題の総括（仮題）」を発信する。

（オ）　シンポジウムの具体化及び次年度の研究課題と方向性について集中的に審議することを目的とし、８月に研究員夏季セミナーを実施する。

（カ）　優秀な若手研究員を更に発掘し幅広い研究体制を整備する。このため、在野で研究する有為な人材に対し、不定期に勉強会を開催し研究発表の場を提供して入会を促進する。

（キ）　令和６年度近現代史研究定期講座等予定・・・・・・・・・・・・・・・・別紙第２

ウ　教育問題の調査・研究・提言（公１－３）

（ア）　戦後のわが国の出発点でありその枠組みを構成している戦後の占領政策を研究し、今後の教育問題を考えるための資を得る。

（イ）　教育問題、特に戦後占領政策との関係について識者の講演等を適時に行い、研究員等の見識の向上を図る。

（ウ）　研究成果は、適時定期刊行誌『偕行』誌上を通して、その普及を図る。

（エ）　部外組織との連携に努める。

エ　定期刊行誌『偕行』及び図書等の発行（公１－４）

（ア）　定期刊行誌『偕行』を隔月に発行する。この際、引き続き電子版の配付の拡大に努める。

（イ）　陸修偕行社の公益広報誌の性格を重視し、研究発表会及びシンポジウム等における報告、会員の研究論説、部外研究者の記事や協力団体の論文との交換掲載、一般マスコミとは別の観点から陸上自衛隊の活動周知等幅広い内容とし、類似誌とは異なる広報媒体であるように努める。

（ウ）　部外有識者、公立図書館、陸上自衛隊の各部隊・機関の長及び地方協力本部長等に寄贈する。

（エ）　図書等の発行

安全保障等に係る研究論文等を図書等として発行する。

（2）　陸上自衛隊等に対する必要な協力（公２）

ア　隊力の補完等及び協力（公２－１）

（ア）　教育訓練、研究開発、後方支援、隊員管理等の分野において隊力等が不足している事項を調査・調整して、要請に応じて協力するとともに、新規協力事業の基盤を設定する。

（イ）　国の安全保障に関する陸上自衛隊の幹部教育等に対し、講師派遣等により支援するとともに、必要な情報を提供する。

（ウ）　令和６年度幹部教育等に対する講師派遣予定・・・・・・・・・・・・・・別紙第３

イ　激励・慰問及び相談・助言（公２－２）

（ア）　陸上自衛隊の行う国際平和協力活動及び災害派遣活動に対し、各地偕行会並びに自衛隊関係機関及び関係友好団体と連携して激励・慰問する。

（イ）　陸上自衛隊幹部候補生学校卒業式等に参加して激励する。

（ウ）　陸上自衛隊部隊等の記念式典に参加又は祝電を打電して激励する。

（エ）　陸上自衛隊等からの質問・調査依頼について協力する。

（3）　英霊の慰霊顕彰及び自衛隊殉職者の追悼、戦没者の遺骨収集並びに自衛隊殉職者遺族の援護（公３）

ア　英霊の慰霊顕彰及び自衛隊殉職者の追悼（公３－１）

（ア）　国家として在るべき姿で英霊の慰霊顕彰が行われるまでの間、陸軍建軍後初めての国運をかけた対外戦争である日清戦争終結の４月１７日に靖國神社において、陸修偕行社慰霊祭を斎行して陸軍の英霊を慰霊する。

この際、陸修偕行社慰霊祭の斎行に先立ち、市ヶ谷駐屯地慰霊碑地区の阿南惟幾陸軍大将荼毘の碑などに対する献花を行う。また、今後自衛官に戦死者が出た場合における国家として在るべき慰霊顕彰について研究し提言する。

（イ）　靖國神社に寄贈した偕行文庫を通じた英霊の顕彰の在り方について、検討を行う。

（ウ）　国家が斎行する自衛隊殉職隊員追悼式に参列し、国の存立を担う崇高な職務に殉ぜられた陸上自衛隊殉職隊員の御霊に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する。また、自衛隊殉職隊員の護国神社への祭祀について検討する。

（エ）　靖國神社の例大祭及び政府や協力団体の慰霊顕彰事業に参列・協賛する。

（オ）　各地偕行会と連携し、護国神社の例大祭及び陸上自衛隊殉職者追悼式に参列する。

（カ）　陸軍墓地の整備を陸修偕行社の事業とすることについて、引き続き検討する。

イ　戦没者の遺骨収集（公３－２）

戦没者遺骨収集法に基づく関係団体の戦没者の遺骨収集活動に協力する。

ウ　自衛隊殉職者遺族の援護（公３－３）

自衛隊殉職者遺族の援護のため、防衛弘済会が行う援護基金活動に協力する。

（4）　地域社会活動に対する協力及び国内外の友好団体との交流（公４）

ア　地域社会活動に対する協力（公４－１）

地方自治体等が実施する各種行事等を支援する。

イ　国内外の友好団体との交流（公４－２）

国内の友好団体及び米国等の陸軍等退役軍人の会との交流を実施する。

（5）　集会施設等の運営（収１）

ア　集会施設等の運営

（ア）　定期刊行誌『偕行』やホームページ等による紹介及び呼びかけ等により、会員及び陸上自衛隊現職幹部自衛官並びに関係協力団体の利用拡充に努め、収益の向上を図る。

（イ）　会員の親睦及び同好会活動並びに会員と現職幹部自衛官との交流の場として提供する。

イ　貸会議室の貸出（収１－１）

会員や関係協力団体に対して貸会議室を貸出しする。

ウ　談話室の運営（食料・飲料の販売を含む）（収１－２）

食料及び飲料（酒類を含む。）の販売によるセルフサービス又はケータリングサービスを活用した飲食を提供する。

（6）　図書等及び物品の販売（収２）

ア　図書等の販売（収２－１）

（ア）　安全保障等に係る研究論文等を図書として販売する。

（イ）　陸修偕行社カレンダー等を販売する。

イ　物品の販売（収２－２）

陸修偕行社グッズの販売を行う。

（7）　会員の研鑽と親交（他１）

ア　集会の開催（他１－１）

陸修偕行社総会等を開催する。なお、全国会長会同は、隔年開催とする。

イ　定期刊行誌『偕行』の別冊付録の発行（他１―２）

会員相互の意見交換、親睦、連絡及び陸修偕行社事業の会員への反映に資する会員向け広報誌として「花だより」・「つどい」を隔月に発行して会員に配布する。

（8）　広報活動

ア　「陸修偕行社とは、陸上自衛隊に対する支援・協力を通じて日本の安全保障に寄与することを主な目的とした偕行社と陸修会が合同して設立された組織である」ことを周知・徹底するため、ホームページ、フェイスブック、Ｘ（旧ツイッター）、インスタグラム、You Tube等のデジタル媒体及び新規に作成したパンフレットを主要手段として、陸修偕行社の設立（合同）の趣旨、歴史・伝統、事業及び活動について広報する。

この際、陸修偕行社の名称が「陸修会と偕行社が合同したこと」、「偕行社の良き伝統を引き継ぐ組織であること」及び「現職幹部自衛官を支えるために行動する組織であること」を明確にすることを重視する。

イ　広報にあたっては、現職及び退職直後の幹部自衛官及び法人賛助会員等に対する広報活動を強化し、陸上自衛隊に幹部自衛官として勤務し、円満に退職した者の全てが会員となること及び陸修偕行社が陸上自衛隊応援団の旗頭であることをあらゆる場を通じて周知徹底する。

この際、各地偕行会との密接な協力・連携に留意する。

ウ　現職幹部自衛官に対する広報活動強化の一環として、幹部候補生学校卒業式における場を活用して陸修偕行社の紹介を行い、陸修偕行社と幹部候補生学校の連携を強化する。

エ　積極的な情報発信のため、メールマガジンを最大限に活用する。このため、登録者数の増加を引き続き推進する。

オ　作成した陸修偕行社の広報パンフレットを修正・更新するとともに、初年度の事業・活動の実情に合わせ各委員会の協力を得てホームページの内容を逐次更新する。

（9）　厚生活動

ア　会員の福利厚生活動を充実するため、各種同好会活動を実施する。

この際、各種イベントの開催により、陸上自衛隊現職幹部自衛官等との交流を図る。

イ　陸上幕僚監部及び中央業務支援隊が実施する展示会に努めて参加する。この際、ホームページを活用するなど部内外への積極的な広報に努める。

（10）　陸修偕行社の会勢拡大等についての検討

ア　会勢拡大

（ア）　全　般

陸修偕行社の運営基盤を維持・強化してその勢いを加速させるため、運営組織の見直しにより体制を強化し、会員の事業への参画及び寄付の納付意識の高揚を図るとともに、賛助会員の入会を促進する方策について検討する。

この際、三木会・尚友会等をはじめとする全国に存在する陸上自衛隊の各種ＯＢ・ＯＧ会の陸修偕行社への組織的な取り込み及び個人賛助会員の組織的な勧誘方策についての検討を重視する。

（イ）　運営組織の見直し

ａ　会勢拡大委員会の改編・拡充等

現行の「会勢拡大委員会」を改編・拡充するとともに、各委員会を充実させる。

ｂ　理事会の改編

偕行社と陸修会の合同協議での合意事項（令和５年５月８日）に基づき、陸上自衛隊を円満に退官したものは、全て普通会員となることから、Ａ幹部以外の部内幹部２名、３尉候補者課程１名、防衛医官１名、防衛看護官１名及び女性幹部自衛官１名の６枠を任用区分に応ずる理事として任用するため、理事の定数を変更する。

ｃ　課題検討委員会の新設

偕行社と陸修会の合同協議での合意事項（令和５年１月１０日）に基づき、合同後に具体化すべきとされた事項を検討するため、「課題検討委員会」を新設する。

（ウ）　元幹部自衛官及び現職幹部自衛官の事業への参画及び寄付の納付意識の振起

ａ　同期生会長を通して、同期生に対する陸修偕行社の目的及び事業内容を紹介し事業への参画及び寄付納付意識の振起を図り、令和６年度末の寄付納付等会員の減勢を局限する。

この際、三木・尚友会等の会員の意識の高揚を重視し、各期の寄付納付者の目標を８０名以上とする。

b　各地偕行会と連携し、部隊等の訪問や創立記念行事等への参加の機会を活用し、現職幹部自衛官に対して陸修偕行社の目的及び事業内容を周知し、陸修偕行社に対する理解を深め、退職時の事業への参画及び寄付納付意識を振作する。

c　各地偕行会の協力を得て、小平学校及び各方面隊が実施する定年前幹部自衛官の教育に加え幹部自衛官等教育支援を通して、陸修偕行社に対する理解を深め、退職前から事業への参画及び寄付納付意識を高揚させる。

その際、パンフレットのほか定期刊行誌『偕行』の無料購読を活用して、陸修偕行社に対する理解の促進を図る。

（エ）　賛助会員の入会促進

法人賛助会員１００社、個人賛助会員１，０００名として入会を促進する。このため、今年度は法人賛助会員７０社、個人賛助会員２００名を目標として入会促進に努める。

この際、三木・尚友会等の会員が勤務する企業、並びにシンポジウムや部隊等の創立記念行事に参加している個人に対する働き掛けを重視する。

イ　合同後に具体化すべきとされた事項の検討

新設する課題検討委員会において、本部と支部（陸修偕行社と各地偕行会）の関係並びに定期刊行誌『偕行』の在り方について検討する。

(11)　収支均衡の達成に向けた更なる抜本的な対策への着手

引き続き、極めて厳しい財務状況に鑑み、陸上自衛隊に対する必要な協力を効果的に行うことを念頭に、更なる事業の精選及び効率化による財務状況に見合った事業の実施要領について検討し、収支均衡の達成に向けた更なる抜本的な対策に着手する。

この際、実績に基づく適切な収支予算書による計画的な予算の執行並びに予算と執行の乖離の防止に努める。

(12)　各地偕行会との協力

ア　各種事業の支援

陸修偕行社における本部と支部（陸修偕行社と各地偕行会）の関係が確立されるまでの間、引き続き現行の「緩やかな協力関係」を基本として「偕行社の在るべき方向（理念）」に基づく「偕行社と各地偕行会との協力要領（案）」により、各地偕行会が行う次の事業を支援する。

（ア）　地方における防衛講話の開催（陸修偕行社が講師を派遣）

（イ）　地元の陸上自衛隊が行う幹部教育等の支援

（ウ）　地元の陸上自衛隊が行う各種行事等への参加

（エ）　地元から派遣される陸上自衛隊の国際平和協力活動及び災害派遣部隊等の激励・慰問

（オ）　護国神社の慰霊祭及び殉職陸上自衛隊員追悼式への参列

イ　陸修偕行社における本部と支部の関係について、引き続き検討する。

4　主要会議等

（1）　総　会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和6年10月　4日（金）

（2）　評議員会

ア　定　時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和6年　6月14日（金）

イ　臨　時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・上記の他必要の都度実施

（3）　理事会

ア　通　常・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和6年　5月24日（金）
令和7年　3月14日（金）

イ　臨　時・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和6年　6月14日（金）
上記の他必要の都度実施

（4）　運営企画会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和6年　5月17日（金）
令和6年　7月19日（金）
令和6年12月20日（金）
令和7年　2月14日（金）
上記の他必要の都度実施

（5）　業務連絡会同・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・令和6年　6月28日（金）
令和6年10月25日（金）
令和7年　2月28日（金）

（6）　各委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・毎月又は2～3ヵ月ごとに実施

令和６年度安全保障研究定期講座等予定

１　安全保障定期講座（その１）

月 日（曜日）	定期講座等	講　　師	テ　－　マ
令和６年 ４月１８日（木）	第９４回定期講座	森下泰臣　氏 （陸上幕僚長）	防衛３文書後の１年を振り返る（仮）
１０月	第９５回定期講座	兵頭慎治　氏 （防衛研究所研究幹事）	ロシア・ウクライナ戦争の2年目
令和７年 １月	第９６回定期講座	部外講師（未定）	未　定

備　考：１４：００～１６：００ホテルグランドヒル市ヶ谷において開催

２　定期講座（その２）

月 日（曜日）	定期講座	講　　師	テ　－　マ
令和６年 ５月１６日（木）	第１回定期講座	関口高史　研究員	南太平洋における米中対立の構図
６月２０日（木）	第２回定期講座	高田克樹　研究員	ウクライナ戦争が示唆する今後の自衛隊の戦い方
８月２２日（木）	第３回定期講座	嶋本　学　研究員	ドローンの軍事利用
９月１９日（木）	第４回定期講座	城戸正志　研究員	米国の宇宙戦の動向と日本へのインプリケーション
１０月１５日（火）	第５回定期講座	鈴来洋志　研究員	朝鮮半島の軍事情勢

備　考：１５：００～１６：３０陸修偕行社会議室において開催

２　定期講座（その２）

月 日（曜日）	定期講座	講　　師	テ　ー　マ
令和６年 １１月１４日（木）	第６回定期講座	野村佳正　研究員	戦史から見たイスラエルの占領政策
１２月１９日（木）	第７回定期講座	菅野　隆　研究員	米陸軍のドクトリン
令和７年 ２月２０日（木）	第８回定期講座	大澤洋一　研究員	中国の軍事情勢
３月１３日（木）	第９回定期講座	壁村正照　研究員	危険なナラテイブ戦

備　考：１５：００～１６：３０陸修偕行社会議室において開催

３　シンポジウム

月 日（曜日）	シンポジウム	講　　師	テ　ー　マ
令和６年 ７月１５日（月）	シンポジウム	・　ニコルソン中将 （元ⅢＭＥＦ司令官） ・　元幹部自衛官 ・　現職幹部自衛官	未　定

備　考：午後（時間未定）ホテルグランドヒル市ヶ谷において開催

令和６年度近現代史研究定期講座等予定

月 日（曜日）	定期講座	講　　師	テ　ー　マ
令和６年 ５月２５日（土）	第　９７回定期講座	浜井　和史　氏 （帝京大学教育文化学科准教授）	靖國など戦後の慰霊問題（仮）
７月２７日（土）	第　９８回定期講座	下薗　輝昭　氏	秘められた海上自衛隊創設の歴史 －そこに先人の信念と躬行が－
９月２８日（土）	第　９９回定期講座	田中　達浩　研究員	情報化時代の軍事変革（情報 RMA）
１１月３０日（土）	第１００回定期講座	池田　十吾　研究員	シビリアンコントロール（仮）
令和７年 １月２５日（土）	第１０１回定期講座	齋藤　達志　研究員	戦後活躍した日本将校団 －「白団」物語－
３月１５日（土）	シンポジウム	部外講師（未定）	戦後問題の総括（仮題）

備　考：定期講座は、１４：００～１６：００ホテルグランドヒル市ヶ谷において開催する。
　　　：シンポジウムは、１３：００～１７：００ホテルグランドヒル市ヶ谷において開催する。

令和６年度幹部教育等に対する講師派遣予定

１　幹部候補生学校（福岡県久留米駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
９月１９日（木）	幹部候補生課程(BU)	使命感	磯部晃一氏（元東部方面総監）

２　富士学校（静岡県富士駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
７月　１日（月）	3尉候補者課程	初級幹部の心構え	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
１１月１５日（金）	幹部初級課程(BU)		
３月　５日（水）	幹部初級課程(I)		

３　高射学校（千葉県下志津駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
５月　中旬	幹部特修課程	リーダーシップ	検討中
	幹部上級課程(BU)		
	3尉候補者課程		
９月　中旬	幹部上級課程(Ｉ)		
	幹部初級課程		

４　情報学校（静岡県富士駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
５月１６日（木）	幹部特修課程	使命感	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

５　航空学校（三重県明野駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
５月３１日（金）	幹部特修課程	修学の心構え	磯部晃一氏（元東部方面総監）
	幹部上級課程(BUIF)	中堅幹部の心構え	

5　航空学校（三重県明野駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講演内容	講　　　師
５月３１日（金）	幹部初級課程(I)	初級幹部の心構え	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	3尉候補者課程	幹部任官への心構え	
１０月３１日（木）	幹部上級課程(IF)	中堅幹部の心構え	磯部晃一氏（元東部方面総監）
	幹部初級課程(F)	初級幹部の心構え	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

6　施設学校（茨城県勝田駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講演内容	講　　　師
４月２８日（月）	幹部上級課程(BU)	中隊長の心構え	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
６月１４日（金）	幹部初級課程(I)	小隊長の心構え	
９月２０日（金）	幹部上級課程(I)	中隊長の心構え	

7　通信学校（神奈川県久里浜駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講演内容	講　　　師
４月　５日（金）	幹部上級課程(BU)	幹部自衛官の不易流行	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	幹部初級課程(BU)		
９月１３日（金）	幹部上級課程(I)		
	幹部初級課程(I)		

8　武器学校（茨城県土浦駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講演内容	講　　　師
４月　２日（火）	幹部上級課程(BU)	資質教育	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	3尉候補者課程		
１０月　１日（火）	幹部上級課程(I)		野澤真氏（元中部方面総監）

9　需品学校（千葉県松戸駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講演内容	講　　　師
４月１５日（月）	幹部上級・初級・3尉候補者課程	使命感の涵養	小川清史氏（元西部方面総監）

9　需品学校（千葉県松戸駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
５月１７日（金）	幹部上級・初級・3尉候補者課程	使命感の涵養	本松敬史氏（元西部方面総監）
６月２０日（木）			大塚裕治氏（元関東補給処長）
７月１７日（水）	幹部上級・初級課程	方面隊等兵站	熊本義宏氏（元装備施設本部副本部長）
１０月　４日（金）	幹部上級課程	使命感の涵養	平木重臣氏（元需品学校教育部長）
１２月１７日（火）	幹部初級課程		中川博英氏（元需品学校教育部長）

10　輸送学校（東京都朝霞駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
４月　３日（水）	幹部上級課程	中級幹部の心得	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
５月２９日（水）	幹部初級課程	初級幹部の心得	

11　小平学校（警務科部・会計科部）（東京都小平駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
６月　５日（水）	幹部特修課程 幹部上級課程 幹部初級課程・3尉候補者課程	修学の心得	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

12　衛生学校（東京都三宿駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講 師
４月　３日（水）	中堅幹部集合訓練	中堅幹部の心構え	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
４月１５日（月）	幹部初級課程(NC)	初級幹部の資質 看護官の心構え 衛生科精神	
４月１９日（金）	幹部初級課程(PM)	初級幹部の資質 衛生科精神の顕現	
４月２４日（水）	幹部上級課程(PM)	指揮官・幕僚の心構え 衛生科精神	

12　衛生学校（東京都三宿駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　師
7月　3日（水）	3尉候補者課程	初級幹部の資質 衛生科精神	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	幹部初級課程(MD)	初級幹部の資質 衛生科精神の顕現	
8月２２日（木）	幹部上級課程(MD)	中堅幹部の心構え 衛生科精神	
8月２８日（水）	看護師技術課程		
１１月２６日（火）	幹部初級課程(NC)	初級幹部の資質 看護官の心構え 衛生科精神	

13　化学学校（埼玉県大宮駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　師
4月２２日（月）	幹部特修課程	資質と心構え	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	幹部初級課程(BUI)		
5月　9日（木）	幹部上級課程(BUI)		

14　高等工科学校（神奈川県武山駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　師
6月２５日（火）	高等工科学校生徒	修行の心得（武山の３年間）	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

15　教育訓練本部（東京都目黒駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講話内容	講　　師
4月１５日（月）	最先任上級曹長課程	統率一般（陸上自衛隊の統率）	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
１１月１２日（火）	最先任上級曹長課程		

16　第１陸曹教育隊（北海道東千歳駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講話内容	講　　師
１０月　1日（火）	最先任上級曹長課程	統率の補佐	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	第１陸曹教育隊要員	教官・助教の心得	

17　第２陸曹教育隊（宮城県仙台駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講話内容	講　　　師
４月１２日（金）	生徒課程	陸曹としての資質	田中敏明氏（元東北方面総監）
	陸曹候補生課程		
５月１０日（金）	一般陸曹候補生課程	防人の道(信頼される自衛官)	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
	一般陸曹候補生課程		
	自衛官候補生課程		
７月１９日（金）	陸曹中級課程	陸曹としての資質	田中敏明氏（元東北方面総監）
	陸曹候補生課程		
１０月１６日（水）	陸曹中級課程		
	陸曹候補生課程		
１月１７日（金）	陸曹中級課程		
	陸曹候補生課程		

18　第３陸曹教育隊（静岡県板妻駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講話内容	講　　　師
４月　８日（月）	陸曹上級課程	上級陸曹とは	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
４月１１日（木）	陸曹候補生課程	陸曹の心得	渡部博幸氏（元富士学校長）
	生徒陸曹候補生課程		
５月１６日（木）	陸曹上級課程	上級陸曹とは	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
６月２４日（月）	陸曹中級課程	中級陸曹とは	二見弘幸氏（元東部方面混成団長）
７月１７日（水）	陸曹候補生課程	陸曹の心得	渡部博幸氏（元富士学校長）
８月２３日（金）	陸曹中級課程	中級陸曹とは	二見弘幸氏（元東部方面混成団長）
１０月１６日（水）	陸曹候補生課程	陸曹の心得	渡部博幸氏（元富士学校長）
	陸曹中級課程	中級陸曹とは	二見弘幸氏（元東部方面混成団長）
１２月　６日（金）	陸曹中級課程		
１月１４日（火）	陸曹候補生課程	陸曹の心得	渡部博幸氏（元富士学校長）
２月　７日（金）	陸曹上級課程	上級陸曹とは	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

19　女性自衛官教育隊（東京都朝霞駐屯地）

月 日（曜日）	課　程　名	講演内容	講　　　師
６月２６日（水）	新隊員前期課程	使命感	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

20　第４陸曹教育隊（滋賀県大津駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講話内容	講　　　師
１１月１８日（月）	最先任上級曹長課程	最先任上級曹長の不易流行	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

21　第５陸曹教育隊（福岡県久留米駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　　師
４月２５日（木）	陸曹上級課程	統率の補佐	田浦正人氏（元北部方面総監）
６月１７日（月）			
１２月　３日（火）	最先任上級曹長課程		
１２月１１日（水）	陸曹上級課程		

22　第１１７教育大隊（神奈川県武山駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　　師
６月２５日（火）	一般曹候補生課程	検討中	三宅義信氏（元自衛隊体育学校長）
８月２７日（火）	最先任上級曹長課程		千葉徳次郎氏（元北部方面総監）
１２月　３日（火）	一般曹候補生課程		三宅義信氏（元自衛隊体育学校長）
１２月　４日（水）	上級曹長課程		千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

23　第１１０教育大隊（愛媛県松山駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　　師
６月２７（木）	一般曹候補生課程	防人の道（信頼される自衛官）	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）

24　習志野駐屯地隊員（千葉県習志野駐屯地）

月 日（曜日）	課 程 名	講演内容	講　　　師
４月　１日（月）	習志野駐屯地隊員	使命感	千葉徳次郎氏（元北部方面総監）